

## 2月定例月議会における議案に対する意見募集に寄せられた意見

総件数 7件

(内訳)

- No.1 四日市市火災予防条例の一部改正について(議案第84号) … 1件
- No.2 子ども医療費助成事業(当初予算)について … 3件
- No.3 四日市市みえ森と緑の県民税市町交付金基金条例の制定について(議案第80号) … 3件
- No.4 四日市あすなろう鉄道線 鉄道車両(T車及びTc車)3両(議案第86号) … 0件

\* 合計 6人 ・ 男性 4人 (内訳: 60歳代 2人、70歳以上 2人)  
・ 女性 2人 (内訳: 50歳代 1人、70歳以上 1人)

\* ご意見件数 ・ 1件… 5人、2件… 1人

2月定例会議会における議案に対する意見募集に寄せられた意見

	No. 1 四日市市火災予防条例の一部改正について（議案第84号）	
総務常任委員会	1	<p>消防機関が立入検査を実施して、違反内容があれば公表することについては、良いと思う。</p> <p>唯、設備面についての検査の他、「避難誘導」など建物の管理者による行動の内容を明確に定め、実際に運用する体制が出来ているかどうかの確認をする必要も併せて検査してほしい。</p> <p>（高層建で映画を見ている時、不安になる時があります。）（70歳以上 男性）</p>

2月定例月議会における議案に対する意見募集に寄せられた意見

No. 2 子ども医療費助成事業（当初予算）について	
教育民生常任委員会	<p>1 子育て支援について等々強化されていて良い。 今回の医療費窓口での現金負担「0化」は、安心してすぐ医療機関に出向けることとなり、是非すすめていただきたいと思います。 (70歳以上 男性)</p>
	<p>2 子どもの命にかかわる良い事業です。 「子育てするなら四日市」の第一歩。 歩み出し、うれしいです。 (50歳代 女性)</p>
	<p>3 未就学児と小学生で全体の90%位有り 大変多く有り、負担無強化はよいと思われませんが、 もう少し早く準備をしてはどうか？ (60歳代 男性)</p>

## 2月定例会議会における議案に対する意見募集に寄せられた意見

No.3 四日市市みえ森と緑の県民税市町交付金基金条例の制定について(議案第80号)	
1	<p>内容について道路沿いで倒木となる恐れのある木の除去とあるのは木の管理者が四日市市の場合だけですか？</p> <p>大きくなり道を塞ぐ場合があります。</p> <p>木は数年もすればかなり大きくなり自分は年を取り手入れもままならない場合があります。</p> <p>木の管理者が四日市市の場合以外はその木を植えた人々はその木の管理者がすべきだと思います。</p> <p style="text-align: right;">(70歳以上 女性)</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな森林は森・川・海とのつながりの中で、多くの市民がその恩恵を受けています。その環境を維持推進していくためには、多額の費用と時間を要することから、計画的、持続的な取り組みの中で、交付金の基金化には賛成であります。</li> <li>・納税者である県民(市民)が森林税負担の意識を持つ仕組みづくりが必要であります。(知らぬ間に徴収され、施策が行われているということが無いようにする仕組みづくり)</li> <li>・具体的施策については、広く市民の提案、意見を取り入れる仕組みを作る(市民が参加)</li> <li>・決定は議会が、執行は行政が責任をもって行う仕組みづくりをつくる</li> <li>・「四日市環境計画」や「四日市広域緑の基本計画」「ESD推進」との整合性を図ること</li> <li>・商工農水部(林業や里山保全)、都市計画部(市民緑地制度)、環境部(環境教育)、市民部(市民協働)、教育委員会(ESD推進)等各部の情報共有と施策の整合性を図ること</li> </ul> <p>&lt;具体事例&gt;当団体は、循環社会の構築として、里山保全活動をしています</p> <p>荒廃した竹林の整備を行い、伐採した竹を粉碎し農業に利活用しています</p> <p>整備した里山では、三世代が集い、ESD教育や地域コミュニティーを醸成しています</p> <p>次世代への継承や活動のための高価な機器(粉碎機)の購入や安全教育など活動の推進が図れる</p> <p>施策を提案する仕組みを作る(多くの団体や個人からの提案や意見を受ける)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考までに県内他市町村の27年度実績を添付します</li> </ul> <p>(事業はかなり広範囲にわたっているのがわかってと思います)</p> <p style="text-align: right;">(70歳以上 男性)</p>
3	<p>四日市市みえ森と緑の県民税市町交付金基金条例の制定に伴って、市の森林づくりの施策に関する意見が募集されていることを知り、実際に市内で里山保全活動を行っている団体として、意見を述べさせていただきます。</p> <p><b>意見の要旨</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、みえ森と緑の県民税市町交付金(以下、市町交付金)の基金化に賛成します。</li> <li>2、基金を含め、市町交付金の使途について、市内の森づくりに携わっている市民団体や関係事業者の意見を直接聞く機会を設けてください。条例では、そのことを明記してください。</li> </ol> <p><b>理由</b></p> <p>みえ森と緑の県民税は、森林の公益的な機能(水源の涵養、洪水の防止、生物多様性の維持、地球温暖化防止、市民への憩いの空間の提供など)を保ち将来世代へと持続させていくことを目的として作られたものです。その一部である市町交付金の使途についても、単年度ごとの細切れの使い方ではなく、基金化し市内の森林の再生へのビジョンを持った使い方ができるようにすることを期待して、基金化には賛成します。</p> <p>さて、本市の森林面積は、市域の約14%にすぎません。また、その大部分は里山と呼ばれる雑木林で私有地です。これらの土地は燃料革命が起こってから経済的価値を失い、放置されてきたことは周知のことと思います。そのわずかに残った里山林も今また大小さまざまなソーラー発電の設置や道路建設で失われようとしています。公益的機能の側面から、整備された一定面積の森林を本市に残しておくことは、喫緊の課題です。そのことは、市でも認識され、四日市広域緑の基本計画が策定されています。しかし、法的裏づけのない計画だけでは実効性がなく、事態は急速に悪化しています。</p> <p>そのような状況の中で、微力ながら里山を守っていく必要性を強く意識して活動しているのが、里山保全に係る市民団体です。その形態は、市民緑地で活動する団体、市の公園地内で活動する団体、竹林等の私有地の資源循環を図ろうとしている団体、企業の森などの森林管理を行っている団体など様々ですが、森林の公益的機能を守りたいという思いは共通していると思います。里山を整備し、資源の有効活用につなげて活動を維持していこうとすると、整備にかかる機械や道具、それらを安全に使うスキルの修得、あらたな人材の確保や育成、森林資源の活用につながる施設の整備などが必要になります。その必要性や効率的な活用方法、将来的な展望について、もっとも切実に考えているのは保全活動にかかわっている市民団体です。</p> <p>しかし、市町交付金の使途について、これらの市民団体が直接意見を述べる機会はなく、平成26年度からの市町交付金については、市行政内部の調整のみで使われています。森づくりに有効に活用されたものもありますが、市内の森林整備の必要性からして、これがなぜ優先されるのか疑問に思うものもいくつかあります。</p> <p>市の森林の現実と森林整備にかかわる団体の脆弱さを直接見聞して使途を決めていただく制度となることを強く要望します。</p> <p>なお、里山を市民や事業者、行政の協働によって有効に活用している例は、岡山県真庭市、愛媛県内子町、長野県築北村などのいくつもあります。市内の産業は海岸部を中心に進展していますので、中山間地にはなかなか目が向かないのが現状かと思いますが、森林資源しかない市町村の取り組みは、四日市市の西部地域の活性化には大いに参考になると思います。市の森林整備については市民団体だけで進めるには限界があります。市内の森林資源を有効に活用する小さな森林資源循環型の産業が育成されることは、森林を持続的に維持し、公益的機能を保っていく上でカギとなるものと思います。そのことについてもご一考ください。</p> <p>市議会でのご検討と条例への反映をよろしくお願いします。</p> <p style="text-align: right;">(60歳代 男性)</p>

産業生活常任委員会